

はじめまして、 KYBグループへようこそ

私たちKYBグループは、人生100年時代に備えて
一人ひとりのオプティマムヘルスの実現をサポートする、トータルヘルスケアカンパニーです。

一度きりの人生だから、
好きなことを心ゆくまでやり尽くしたい。
そして、大切な人たちと過ごせる時間を満喫して 充実した毎日を過ごしたい。

そんな充実した毎日は、ただ病気でないだけでなく
“オプティマムヘルス（心身共に最高・最善の健康状態）”があってこそ成り立つものです。

今日という日を、体調に左右されることなく全力で楽しめるように。

そして、“今日”という日を積み重ねたこれからの毎日が
あなたにとって充実した、悔いのない人生に繋がっていくように。

“一人ひとりのオプティマムヘルスの実現をサポートする”。
それが、私たちKYBグループの使命です。

CONTENTS

事業一覧	3
研究領域	5
開発領域	7
医療領域	9
共学領域	11

今も受け継がれる創立者の想い	13
KYBグループの歩み	15
SDGsへの取り組み	17
代表挨拶	19
共同研究公募／KYBクラブのご案内	21
会社概要	22

事業領域 BUSINESS SEGMENT

KYBグループは、8つの団体が展開する4つの事業領域を通じて
皆さまのオプティマムヘルスの実現をサポートしています。



研究領域 ▶▶▶ p.05 - 06

分子整合栄養学理論を次のステージへ

KYBグループの全ての事業の礎となる
栄養素の働きに関する基礎研究や
検査データを用いた臨床研究等を行っています。



開発領域 ▶▶▶ p.07 - 08

本物の栄養補給食品を創り続ける

栄養アプローチの要となる
科学的根拠に基づいたサプリメントを
開発・製造しています。



医療領域 ▶▶▶ p.09 - 10

オプティマムヘルスの実現をサポートする

全身の健康状態を可視化する自費検査を通じて
一人ひとりの目指す健康上のゴールへ伴走する
個別化医療をご提供しています。



共学領域 ▶▶▶ p.11 - 12

知識を知恵に変えるための学びを支援する

分子整合栄養学を共に学ぶ皆さまに向けて
身体の仕組みや栄養素の働き等に関する知識を
科学的根拠に基づいて発信しています。

研究領域

開発領域



分子栄養学研究所

栄養素に関する研究や学術情報の提供、分子整合栄養学
実践専用サプリメントの開発・製造を行っています。

WEBSITE



KYBアメリカ (Organic Wave, Inc.)

最先端の栄養情報の発信国である米国で
製品開発に欠かせない原料の開拓等を担当しています。

医療領域



医療法人社団 同心会 KYBクリニック

現代医療と分子整合栄養学を組み合わせた
個別化医療を行うクリニックです。

WEBSITE



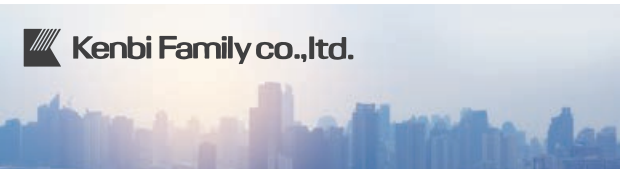
医療法人社団 松寿会 介護医療院松寿会病院

24時間 365日医師や看護師が常駐し、要介護者の方々の
日常生活の支援から看取りまで対応するI型介護医療院です。

WEBSITE



共学領域



株式会社 ケンビファミリー

分子整合栄養学普及のためのイベントの企画・運営と
分子整合栄養学実践専用サプリメントの販売を行っています。



株式会社 KM インポート企画

食品・食品原料の輸入、医薬品の輸入代行事務手続き、
海外の食品・医薬品メーカーの調査等を行っています。



株式会社 KYBメディカルサービス

分子整合栄養学の専門医や管理栄養士・栄養士が所属し
検査結果の解析とそれに基づく栄養アドバイスをしています。



NPO法人 分子整合栄養医学協会

分子整合栄養学の普及を目的とした
情報発信や教育・研修を行っています。

WEBSITE



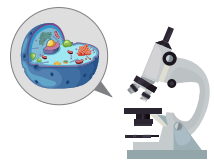


研究領域

分子整合栄養学理論を
次のステージへ

KYBグループの全ての事業の礎となる分子整合栄養学の研究を行っています。

KYBグループが行う製品開発や医療等の全ての事業は、科学的根拠に基づく分子整合栄養学の研究結果に従って展開されています。そのため、KYBグループでは、全ての事業の礎となる分子整合栄養学理論への理解を深めるために、栄養素の働きに関する新たな知見を解明する基礎研究や、検査データを用いた臨床研究等を行っています。



基礎研究

新しい理論や仮説を形成するための
理論的・実験的研究



臨床研究

病態理解や治療法の改善等を目的に
ヒトを対象として行われる医学系研究



全ての事業の礎

開発・医療・共学領域の事業の全てが
基礎・臨床研究による科学的根拠に由来

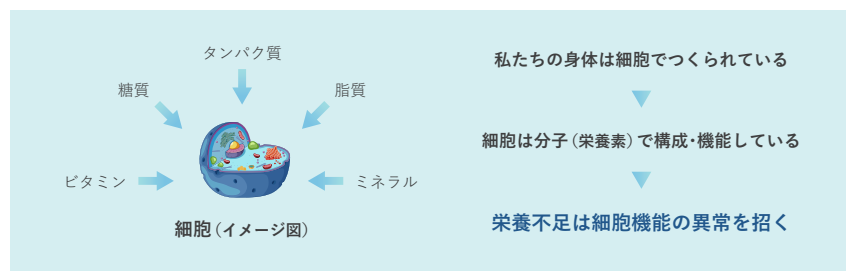
分子整合栄養学とは

分子整合栄養学とは、分子生物学に基づく新しい栄養学で、身体を構成する分子レベルで健康について考える学問です。

私たちの身体は200種類以上、数十兆個もの細胞でできており、細胞が正常に機能するために必要なのが栄養素（分子）です。細胞自体もタンパク質等の分子でできており、細胞を構成する分子が適切な量、適切なバランスで体内に存在してはじめて、細胞は正常に機能することができます。したがって、私たちは食事を通じて細胞に必要な分子（栄養素）を得て、組織の機能を維持し、生命活動を行っていると言えます。

栄養素の不足や栄養素同士のバランスの乱れ等、身体を構成する分子に異常が起ると細胞の機能が低下し、将来的に疾患の発症に発展します。分子の異常は病気に罹った瞬間に突然起こるのではなく、病気になるずっと前の未病（病気とはいえないがどこことなく身体の調子が優れない状態）の段階から始まっているのです。

KYBグループは、分子整合栄養学に基づくオプティマムヘルスケアサービスをご提供しており、その全ての事業の礎として、分子整合栄養学の研究を行っています。



ヒト細胞を用いて栄養素の働きに関する 新たな知見を解明する 基礎研究

KYBグループは、私たちの生命活動に栄養素がどのように関わっているのかヒト細胞を用いた基礎研究を通じて調査を行っています。

研究例1 ビタミンCの抗酸化作用の分子的メカニズム

強力な抗酸化作用で知られるビタミンCですが、細胞内でどのように働いて抗酸化作用を発揮しているのかその詳しい分子のメカニズムは明らかになっていません。

KYBグループは、酸化ストレスに曝されたヒト細胞にビタミンCを添加したときのシグナル分子の発現を測定することによりビタミンCの抗酸化作用の仕組みを解き明かす研究に取り組んでいます。



検査データ値を解析し、栄養摂取による病態への影響を調査する 臨床研究

KYBグループは、医師や医学博士、管理栄養士等を中心とした臨床研究チームを設置し全身の健康状態を可視化する、非常に詳細な自費検査 **〔Kシリーズ〕**（詳細➡p.09）を1991年に独自考案しました。

KYBグループは、**〔Kシリーズ〕**を用いて、栄養素を摂取したときの検査データの経時変化を30年以上研究してまいりました。2022年10月現在、私たちが調査した検査データ数は約36万件に及びます。

研究例2 潜在性鉄欠乏性貧血に対する栄養アプローチの確立

潜在性鉄欠乏性貧血の診断基準として現在広く知られているフェリチンという検査項目がありますが、KYBグループは日本国内で最も早くフェリチンに着目した団体です。

KYBグループでは、1984～2004年の20年をかけて日本人男女15,608名の血液データを調査し、男女とも成人の6割で潜在性鉄欠乏性貧血がみられ、**ヘム鉄の補給により改善がみられる**ことを、2005年に論文にて発表しました。

- 1988 ● ヘム鉄サプリメント「ヘム鉄アルファ」発売
- 1990 ● 減量に対する貧血の予防開始
- 1996 ● 貧血の原因の研究（フェリチン・網状赤血球の検査の重要性）
- 1998 ● 潜在性鉄欠乏性貧血の更なる理解とヘム鉄補給の意義確立
- 2005 ● **ヘム鉄による鉄欠乏性貧血改善に関する論文掲載**
Kaneko, M., et al. Current Status of Occult Iron Deficiency in Japan and Improvement by Intake of Heme Iron: An Analysis Based on Serum Ferritin Levels, 1984-2004. *Journal of Orthomolecular Medicine* 20: 143-159, 2005.

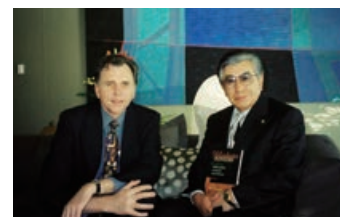
研究例3 ヘリコバクター・ピロリの除菌治療の成否と栄養状態の関連性

ヘリコバクター・ピロリは、胃がんの原因としてオーストラリアの微生物学者、バリー・マーシャル博士とロビン・ウォレン博士によって発見され、2005年に彼らがノーベル生理学・医学賞を受賞するきっかけとなった有害菌です。

KYBグループでは、彼らがノーベル賞を受賞する前の1994年から**ピロリ菌除菌の重要性を主張し、患者の栄養状態が除菌治療の成否に影響**することを、2005年に論文にて発表しました。

また、マーシャル博士とも古くから親睦を深め、ご講演いただいたり感謝状を頂戴したりする等、現在も交流を続けております。

- 1993 ● PG検査による胃疾患の非侵襲スクリーニング実施
- 1994 ● ヘリコバクター・ピロリ検査と除菌の推進
- 1995 ● ヘリコバクター・ピロリ除菌法の全国展開
- 1998 ● ヘリコバクター・ピロリ抗体とPG検査による胃病変のスクリーニング啓発
- 2002 ● ヘリコバクター・ピロリシンポジウム 開催
- 2005 ● **ヘリコバクター・ピロリ菌に関する論文掲載**
Kaneko M., et al. Eradication of *Helicobacter Pylori* with an Extract of Sasa Albomarginata (Bambusaceae). *Journal of Orthomolecular Medicine* 20: 131-135, 2005.
Kaneko M., et al. Improvement of Nutritional Status Following Eradication of *Helicobacter Pylori*. *Journal of Orthomolecular Medicine* 20: 136-142, 2005.



2002年 ヘリコバクター・ピロリシンポジウムにてバリー・マーシャル博士とKYBグループ創立者 金子雅俊



マーシャル博士から金子雅俊が頂戴した感謝状

その他の研究の詳細は
分子栄養学研究所
公式ウェブサイトへ ▶▶▶



<http://orthomolecular-lab.jp>



開発領域

本物の栄養補給食品を
創り続ける

科学的根拠に基づく Nutraceuicals の開発・製造を行っています。

ニュートラシューティカルズとは、日々の健康維持に有用な、科学的根拠をもつ食品等を指す言葉です。
KYBグループは、身体的にも精神的にも、最高・最善の健康状態（オプティマムヘルス）を目指す方々のために健康維持に役立つことが科学的に約束されたニュートラシューティカルズを創り続けています。



KYBグループの科学的根拠に基づいた製品開発とは

KYBグループは、自社のサプリメントを使用している方々の検査データを集めて経時変化を解析し、最新の学術調査結果と照らし合わせながら、医学・生命科学・栄養学等の専門家チームが製品開発を行っています。



医学・生命科学・栄養学等の 専門家チームが製品開発を担当

誰でもサプリメントを作る時代だからこそ
医学・生命科学・栄養学等の
専門家たちによる製品開発



体内でしっかり利用されるよう こだわり抜かれた製品設計

身体の仕組みや栄養素の働きに精通した
専門家チームだからこそ作れる
生体内利用効率にこだわった製品設計



検査データ値への影響を解析し 製品設計を改良

製品使用後の
検査データ値の経時変化を解析し
成分の配合量の改良等に応用

開発例 1

ケンビックス シリーズ

“栄養アプローチの要”となる
分子整合栄養学実践専用サプリメント



開発例 2

レナヴィア シリーズ

栄養補給による内側からのケアを加速する
Orthomolecular Skin Care Series



開発秘話やこだわり等、
製品開発についての詳細は …

分子栄養学研究所
公式ウェブサイト ▶▶▶ 
<http://orthomolecular-lab.jp>

“分子整合栄養学実践専用サプリメント” ケンビックスシリーズの開発・製造

分子整合栄養学で勧められる栄養素の摂取量は、一般的な推奨量を遥かに上回ります。
必要量に個体差はあれど、病態によっては一般的な推奨量の何倍もの量が
求められることもあり、食事だけで補うのが困難なケースが多く存在します。

一番栄養を必要とする病態改善が目的の方こそ
無理なく、そして効率良く、栄養を補ってほしいから。

KYBグループは、“栄養アプローチの要”となる
分子整合栄養学実践専用サプリメント「ケンビックスシリーズ」を開発・製造しています。

1 幅広い個体差に対応できる 豊富なラインナップ

年齢や性別、消化・吸収能力、体質等によって必要な栄養素の種類や量は一人ひとり異なります。
ケンビックスシリーズは、ビタミンC製品だけでも**7種類**ご用意し
幅広い個体差に対応できる豊富なラインナップを取り揃えています。

全製品一覧が見られる
ウェブカタログ ▶▶▶



製品例 1 ミセル（自己乳化型）加工



▲ ミセル加工 あり

脂溶性成分が水に溶けやすい加工により
消化・吸収能力にご不安のある方も安心



▲ ミセル加工 なし

消化・吸収能力にご不安のない方向けの
コストパフォーマンスの面で優れた製品

製品例 2 タイムリリース（徐放性）加工



▲ タイムリリース加工 あり

有効成分がゆっくりと溶け出すので
頻回摂取が難しい方にお勧め



▲ タイムリリース加工 なし

有効成分が速やかに溶け出すので
頻回摂取が苦にならない方にお勧め

2 厳選された天然素材での高濃度配合

有用性や安全性が確認された天然素材のみを使用し、
高用量を無理なく消化・吸収できる製品設計を実現しています。

3 有効成分量を賞味期限まで100%保証

栄養素同士が反応して経年劣化しにくい安心の製品設計と、
常に新鮮な製品をお届けするための少量頻回製造を徹底しています。

“分子整合栄養学的肌理論に基づく基礎化粧品” レナヴィアシリーズの開発・製造

栄養アプローチに取り組んでいる方の中には、
アトピー性皮膚炎等の肌トラブルにお悩みの方が少なくありません。

肌トラブルに悩む分子整合栄養学実践者の皆さまに、
内側からのケアを加速する“外側からの栄養補給の手段”をご提供したい。

そんな願いから、KYBグループは分子整合栄養学肌理論に基づく
アミノ酸系基礎化粧品「レナヴィアシリーズ」を開発・製造しています。

 — **Renaissance**（再生・復活）
— **Vitamin**（ビタミン）
— **Amino Acid**（アミノ酸）

▶ **アミノ酸やビタミンを中心とした栄養成分が健やかな肌と髪へ導く**





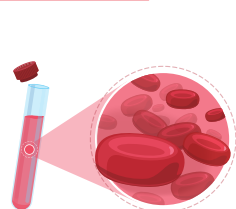
医療領域

オプティマムヘルスの実現を
サポートする



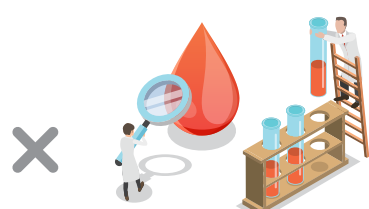
分子整合栄養学理論に基づく個別化医療をご提供しております。

身体の状態やライフステージが一人ひとり異なるように、健康上のゴールもまた一人ひとり異なります。
KYBグループは、独自に考案した自費検査によって全身の健康状態を可視化し、
一人ひとりに最適な分子整合栄養学的アプローチをご提案する、個別化医療を行っております。



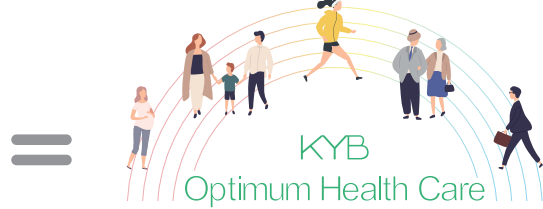
詳細な自費検査

独自に考案した自費検査で
全身の健康状態を可視化



検査データの個別解析

過去36万件の検査データに基づき
分子整合栄養学の専門医が個別に解析



分子整合栄養学的個別化医療

一人ひとりの目指す健康上のゴールに寄り添い
オプティマムヘルスの実現をサポート

全身の健康状態を可視化する自費検査を 独自に考案し、全国で展開

病気は、ある日突然やっっては来ません。
私たちの身体を構成する分子の異常は、
病気を発症するずっと前から始まっています。

KYBグループは、全身の健康状態を可視化する
自費検査項目セット「**Kシリーズ**」を独自に考案し、
全国の提携医療機関で展開しています。

1 全22種類の自費検査を独自に考案

全身の健康状態を可視化する **初診スクリーニング**と
21種類の **オプション検査**を併せて「**Kシリーズ**」と呼んでいます。

K01 初診スクリーニング

全69項目の非常に詳細な
検査で、あらゆる世代の
健康管理をサポートします。

K02~K22 オプション検査

お困りの症状や病態に対する
より適切なアプローチを
明確化するための検査です。

2 初診スクリーニングの特長

身体的に比較的小さい負担で
全身の健康状態を可視化でき、病気のリスク管理に役立ちます。



血液・尿・唾液を採るだけなので
人間ドックと比べて身体的負担が少ない



健康診断の**6.5倍**、人間ドックの**2.5倍**以上もの
圧倒的な血液検査項目数



詳細な検査データにより、**現在の身体の状態と
将来の病気のリスク**を調べられる

検査データの個別解析と栄養指導

1991年に「**Kシリーズ**」を考案して以来、KYBグループは**約36万件**もの検査データを集積し
さまざまな病態と検査データとの関連性について研究を続けてまいりました。

長年の研究実績を活かし、KYBグループでは、「**Kシリーズ**」の検査を受けた方々に対し
検査データの解析と検査結果に基づく栄養指導を行い、オプティマムヘルスの実現をサポートしております。
検査データの解析は**あえて自動化せず、専門医が一人ひとり個別に解析**していることも、KYBグループのこだわりのひとつです。

1 専門医による検査データの個別解析

過去36万件もの検査データの研究成果に基づいて
分子整合栄養学の専門医が検査データを1件1件個別に解析



2 検査結果に基づく栄養指導

分子整合栄養学に精通した医師や管理栄養士等が
検査結果に基づいて貴方に最適な栄養アプローチをご提案



医療関連施設の運営



医療法人社団 同心会 KYBクリニック

現代医療と分子整合栄養学を組み合わせた
個別化医療を行うクリニックです。

WEBSITE



医療法人社団 松寿会 介護医療院松寿会病院

24時間365日医師や看護師が常駐し、要介護者の方々の
日常生活の支援から看取りまで対応するI型介護医療院です。

WEBSITE



訪問看護ステーション

看護師や理学療法士等をご自宅や施設に派遣し、医療サービスを
ご提供する、訪問看護ステーションの運営に携わっています。



相談支援センター

自治体の障がい福祉サービスの利用を希望している障がい者の方を
サポートする、相談支援センターの運営に携わっています。

提携医療機関

KYB Affiliated Medical Institutions

KYBグループでは、日本全国の皆さまに「**Kシリーズ**」の検査をお受けいただけるよう
全国の医療機関と積極的に提携を結んでいます。

2022年10月現在、全国170カ所にのぼる医療機関の先生方が私たちの事業にご賛同くださり
提携医療機関として検査の実施にご協力くださっております。

登録医療機関数

全国 **28** 都道府県
170 以上



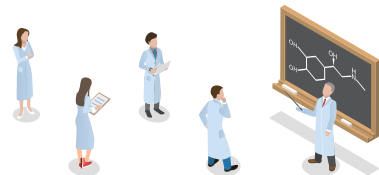
共学領域

知識を知恵に変えるための
学びを支援する

コーラーナー

Co-learner の学びを支援する健康情報をご提供しております。

真偽の入り乱れるさまざまな健康情報が錯綜する現代だからこそ、自分の健康を自分で守れるだけの知識を身につけてほしい。
このような想いから、KYBグループでは、科学的根拠に基づく本当に正しい健康情報を厳選し
コーラーナー（分子整合栄養学を共に学ぶ仲間）に向けて発信しています。



科学的根拠に基づく情報発信

身体の仕組みや生命を支える栄養素の働きに関する知識を
科学的根拠に基づいて正しく伝える



分子整合栄養学の普及と発展

分子整合栄養学について学んだ知識を知恵として生活に活かし
自分の健康を自分で守れる社会づくりに貢献する

各種セミナーの企画・運営

1984年の創立以来、KYBグループでは1万回を超えるセミナーを開催してまいりました。



金子塾

医療従事者等の専門家でなくても
分子整合栄養学を体系的に学べる
日本初の講座

基礎化学講座

生化学と有機化学に精通した
分子整合栄養学の専門医が教える
“プレ金子塾”

KYBクリニック 医師
吉田 京子



特別講演会 (コンベンション・シンポジウム)

ノーベル賞受賞者を含む
世界の著名な研究者を講師に迎える
特別なセミナー



講演会・勉強会

2021年は、年間250回
月平均約21回という
過去最高の開催実績を記録

動画コンテンツの制作・配信

過去のセミナー映像に加え、身体の仕組みや栄養素の働きの解説、ケンピックスシリーズの製品紹介等
バラエティに富むオリジナルコンテンツを制作し、定期的に配信しています。

セミナー



35周年記念横浜特別講演会
分子整合栄養学概論



SAMPLE MOVIE
◀◀ ▶▶

身体の仕組み



分子栄養学ラボ
免疫ってどんなもの？



SAMPLE MOVIE
◀◀ ▶▶

ウェブマガジン“分子栄養学タイムズ”の運営

分子整合栄養学を実践しているアスリートやドクターへのインタビューをまとめた
「KYB Group×FUTURE」シリーズや、成長期の栄養アプローチに特化した
「子供の栄養」シリーズ等、オリジナル記事を多数掲載しています。

分子栄養学 **TIMES** タイムズ
The Orthomolecular Times

<https://orthomolecularjapan.co.jp/orthomoleculartimes/>



インタビュー

KYB GROUP × FUTURE



2008年北京パラリンピック
自転車競技 金メダリスト

石井 雅史 選手



2012年・2016年オリンピック出場
十種競技 日本記録保持者*

右代 啓祐 選手

栄養アプローチ



子供の栄養
子供の成長には
まずタンパク質を！



子供の栄養
ビタミンCで、
ストレスから子供を守ろう！

※ 2022年10月現在

書籍の刊行

分子整合栄養学の基礎知識から、創立者が語るKYBグループのこれまでの歩みまで、多岐にわたるテーマの書籍を刊行しています。



たゆまず、ひたむきに
生涯一学習者として
金子雅俊 講演集 I～V

日本の分子整合栄養学の祖が語る
KYB運動の軌跡



検査ハンドブック
KYBクラブ検査項目と
検査の目的

KYBグループが独自に考案した
自費検査項目セットのトリセツ



やさしい分子栄養学 1
これだけは知っておきたい
分子栄養学入門

分子整合栄養学の基本を濃縮した
超初心者向け指南書



女性 + 健康読本
～症例から学ぶ
貧血とデータ解析～

有経女性の9割の罹患が疑われる
潜在性鉄欠乏性貧血に迫る



細胞の機能から学ぶ
血液検査値と病態
～タンパク質、糖、脂質編～

私たちの生命を支える細胞の機能と
それに対する栄養素の関わり



やさしい分子栄養学 2
慢性疲労の影でくすぶる
酸化と炎症

ウイルス感染の後遺症として注目の
慢性疲労症候群の根本治療に迫る

今も受け継がれる 創立者の想い

“ Optimize Health for the Future ”

未来に備える、オプティマムヘルス

1984年の創立以来、KYBグループがずっと大切にしてきた“オプティマムヘルス”という理念。

その原点は、「薬で症状を抑える対症療法が中心の日本に、分子整合栄養学に基づく根本治療を広め一人でも多くの方を“心身共に最高・最善の健康状態（オプティマムヘルス）”へ導きたい」という創立者 金子雅俊の想いです。

後に「日本の分子整合栄養学の祖」と呼ばれることとなった彼が多くの盟友たちと共に生涯をかけて大切に育んだオプティマムヘルスという理想の樹はいつしか全国に延べ約7万名もの花を咲かせる大樹へと育ち、日本の分子整合栄養学の原点としてKYBグループの活動の中で現在も大切に受け継がれています。

KYBグループ創立者

金子 雅俊 (1935-2020年)

ライナス・ポーリング博士から直接分子整合栄養学を学んだ、日本の分子整合栄養学の祖。

2001年生物医学協同教育研究所
(Bio-Medical Synergistics Education Institute) より
パールメーカー賞受賞。

2007年ISOM (International Society for Orthomolecular
Medicine; 国際オーソモレキュラー医学会) 殿堂入り、
分子整合医学最優秀ドクター賞受賞。

1. 若かりし頃の金子 雅俊 / 2. 1984年ライナス・ポーリング博士来日記念講演会。左からツッカー・キャンドル夫人、ライナス・ポーリング博士 / 3. 1986年第2回全国大会 神戸来日記念特別公演。A: 左からエミール・ツッカー・キャンドル博士、ライナス・ポーリング博士。B: 左からツッカー・キャンドル夫人、ライナス・ポーリング博士 / 4. 1991年7周年記念シンポジウム。アレックス・デュアルテ博士 / 5. 1992年マイケル・レッカー博士来日講演会。マイケル・レッカー博士 / 6. 1997年ニューヨークシンポジウム。A: 金子 雅俊。B: ステファン・シナトラ博士。C: エイブラム・ホッファー博士 / 7. 1999年15周年記念国際シンポジウム。A: ヒュー・リオルダン博士。B: チャールズ・シモン博士ご夫妻 / 8. 2001年KYBフォーラム2001。ピーター・ラングシャン博士ご夫妻 / 9. 2003年ヒュー・リオルダン博士来日記念講演会。ヒュー・リオルダン博士 / 10. 2002年ヘリコバクター・ピロシンポジウム。バリー・マーシャル博士 / 11. 2006年ヒーリングキャンサー・コンベンション。A: マイケル・レッカー博士。B: ロナルド・ハニハイキ博士。C: 左からエリック・バーターソン博士ご夫妻、ロナルド・ハニハイキ博士、ハロルド・フオスター博士、マーゴット・キッターさん、エイブラム・ホッファー博士 / 12. 30周年特別講演会



今も受け継がれる 創立者の想い

これまでも、これからも、
日本の分子整合栄養学の原点として。

KYBグループの約40年間の歩みをご紹介します。

1984



KYBグループの始まり

米国でライナス・ポーリング博士から学んだ分子整合栄養学を広めるために、分子整合栄養学の寺子屋として「金子塾」を開講したのが、KYBグループの始まりです。
同年には、日本での分子整合栄養学の普及と発展を願ってポーリング博士が来日され、来日記念講演会を開催しました。

- 1984 ● KYBクラブ創立(日本におけるKYB運動のスタート)
● 金子塾の開講
● 株式会社 ケンピファミリー 設立
● ライナス・ポーリング博士来日記念講演会：東京
● ハワイコンベンション
- 1985 ● 分子栄養学研究所 設立
● 第1回全国大会：静岡(熱海)
● 香港コンベンション
- 1986 ● 金子塾の全国展開
● 第2回全国大会：神戸来日記念特別公演
(ポーリング博士・ツッカーキャンドル博士公演)
- 1990 ● 減量プログラム(オソソダイエツプログラム) 開発
● 減量に対する貧血の予防開始
● 肝機能障害並びに飲酒者に対する分子整合栄養学的アプローチ

1991



全身の健康状態を可視化する
血液検査項目セットの考案

分子整合栄養学の必要性をもっと多くの方々に理解していただくために、全身の健康状態を可視化する客観的な仕組みが必要だと考えた金子雅俊は、非常に詳細な自費検査項目セットを独自に考案。これはKYBグループが創った日本独自の画期的な健康管理システムで、海外でも高い評価を受けています。

- 1991 ● アトピー性皮膚炎に対する分子整合栄養学的アプローチ
● 7周年記念シンポジウム：アメリカ(ロサンゼルス)
(マイケル・レッサー博士他2名講演)
- 1992 ● KYB血液検査医療機関の拡大
● マイケル・レッサー博士来日講演会：東京・岐阜・広島

- 1993 ● 慢性胃炎と萎縮胃の改善推進(PGI、PGII、PGI/PGII
検査による胃疾患の非侵襲スクリーニング実施)
- 1994 ● 肥満者の病態改善の推進
● ヘリコバクター・ピロリ検査と除菌の推進
● 株式会社 KYBメディカルサービス 設立
● 提携医療機関の拡大
● 分子栄養学シンポジウム：東京
- 1995 ● ヘリコバクター・ピロリ除菌法の全国展開
● スポーツ選手の栄養指導 開始
● 食事アドバイスの実施
● 分子栄養学シンポジウム：東京
- 1996 ● 貧血の原因の研究(フェリチン・網状赤血球の検査の重要性)
● 虚血性疾患の早期発見への取り組み(心エコードック)

1997



ニューヨークシンポジウム 開催

分子整合精神医学の提唱者の一人であるエイブラム・ホッファー博士を講師に迎え、アメリカ(ニューヨーク)にてシンポジウムを開催しました。統合失調症の臨床医として、ナイアシンを用いた栄養療法で90%以上の患者を完治させたと言われるホッファー博士と、その他10名の先生方のご講演に、約200名もの参加者たちが熱心に耳を傾けました。

- 1997 ● 耐糖能異常及び高尿酸血症・脂肪肝と
診断されている方の減量指導の推進
- 1998 ● 潜在性鉄欠乏性貧血の更なる理解と
ヘム鉄補給の意義確立
● 担がん宿主への栄養補給の意義とQOLの確立
● ヘリコバクター・ピロリ抗体・PGによる胃病変の
スクリーニングの啓発
● 更年期障害の代替療法の意義確立
● 糖尿病における検査項目追加
(アルブミン/クレアチニン(尿)、カルシウム/尿)
- 1999 ● 栄養療法有効性のデータ解析
● 15周年記念国際シンポジウム：横浜
- 2000 ● 「免疫不全マウスの日和見感染に対するオリーブ葉エキスの
治療効果」の論文がJournal of Orthomolecular
Medicine(分子整合医学ジャーナル)に掲載

2001



金子雅俊 パールメーカー賞受賞

パールメーカー賞とは、分子整合栄養学の普及活動において目覚ましい活躍をした人物に対し、生物医学協同教育研究所(Bio-Medical Synergistics Education Institute)から贈られる賞です。毎年1名に贈られるこちらの賞の21世紀最初の受賞者に、創立者 金子雅俊が選ばれました。

- 2001 ● KYBフォーラム2001(5日間)：札幌・東京・静岡・大阪・
福岡(ピーター・ラングジャン博士他9名講演)

2002



ヘリコバクター・ピロリシンポジウム 開催

胃がんの原因菌として知られるヘリコバクター・ピロリの発見者の一人、バリー・マーシャル博士を講師に迎え、オーストラリア(パース)でシンポジウムを開催。1994年から除菌治療の重要性を主張し続けているKYBグループの活動を称えて、マーシャル博士から感謝のお言葉をいただきました。

- 2002 ● ドクター対象「金子塾」：東京
- 2003 ● ヒュー・リオルダン博士来日記念講演会
- 2004 ● NPO法人 分子整合栄養医学協会 設立
● 20周年記念フォーラム“一生感動”：千葉
● 医療法人社団 同心会 KYB渋谷クリニック 開院
- 2005 ● アンチエイジングに対する分子整合栄養学的アプローチ 開始
● 子供に対する分子整合栄養学的アプローチ 開始
● ヘリコバクター・ピロリについての論文と
ヘム鉄による鉄欠乏性貧血改善の論文が
Journal of Orthomolecular Medicine
(分子整合医学ジャーナル)に掲載
● マイケル・レッサー博士来日記念講演会：
東京・大阪・岡山

2006



ヒーリングキャンサー・コンベンション 開催

分子整合栄養学理論確立の中心人物である、ライナス・ポーリング博士とエイブラム・ホッファー博士の共著“ Healing Cancer(がんを直す)”の邦訳出版を記念して、ホッファー博士他6名の先生方を講師に迎え、カナダ(バンクーバー)にてコンベンションを開催しました。

- 2006 ● 株式会社 KMインポート企画 設立
● スキンケア製品「ジョリアックシリーズ」開発・製造
● 肌への分子栄養学的アプローチ
● KYBハウス 開設

2007



金子雅俊 ISOM 殿堂入り
「分子整合医学最優秀ドクター賞」受賞

分子整合栄養学の国際学会であるISOM(International Society for Orthomolecular Medicine;国際オーソモレキュラー医学会)より、分子整合栄養学界のバイオニアを表彰する「ISOM殿堂入り」と、その年の最も優れたドクターを表彰する「分子整合医学最優秀ドクター賞」という2冠を頂戴しました。

- 2007 ● 金子雅俊・佐久間博先生特別講演会：東京・大阪

2008



ロナルド・ハニハイキ博士
来日記念講演会 開催

高用量ビタミンC点滴療法の第一人者であるロナルド・ハニハイキ博士を東京にお招きし、講演会を開催しました。

- 2008 ● 医療法人社団 同心会 KYB豊崎クリニック 開院
- 2009 ● 25周年記念特別フォーラム：札幌・東京・大阪・広島
- 2010 ● KYB渋谷クリニック「栄養相談室」開設
- 2011 ● スキンケア製品「レナヴィアシリーズ」開発・製造
● 分子栄養学研究所特別講座 開催
- 2012 ● 4R消化管テラーメイドアプローチ 開始
● 「消化管と全身性疾患との関係」をテーマに
コンベンション2012 in 沖縄 開催
- 2013 ● 口腔ケアアプローチ 開始
- 2014 ● 30周年記念式典：千葉
● 30周年特別講演会：東京
- 2015 ● 金子雅俊所長 出版記念特別講演会：東京
● 「口腔内と全身の健康との関係」をテーマに
コンベンション2015 in 軽井沢 開催
- 2016 ● 「女性の健康」をテーマに
コンベンション2016 in ハワイ 開催
- 2017 ● 持続グルコース濃度測定検査 開始
● 血清25(OH)VD濃度測定検査 開始
● 「アミノ酸」をテーマに
コンベンション2017 in 洞爺湖 開催
- 2018 ● 便中短鎖脂肪酸検査、リーキーガット症候群検査 開始
● 「脳と腸」をテーマにコンベンション2018 in 台湾 開催

2019



KYBグループ創立35周年

分子整合栄養学の小さな寺子屋「金子塾」開講から始まったKYBグループが日本全国に広がる大きな輪に発展したことを祝い、東京・明治座にて35周年記念コンベンションを開催しました。

- 2019 ● 医師がつくったグループホーム 設立
● 35周年記念コンベンション ～今明らかになる
“分子整合栄養学”の礎～ 開催：東京(明治座)
- 2020 ● 医療法人社団 松寿会 松寿会病院 グループ参画
● 日本人に特化した消化管アプローチ 開始
- 2021 ● 訪問看護ステーション 設立
● ANH “Vitamin C for COVID” 署名運動 支援
● Vitamin Angelsへの支援 開始
- 2022 ● KYBクラブ特別講演会「Know Your Body」
～私たちはいかにして自分の健康を守るか～ 開催：
オンライン(ロバート・ヴァーカーク博士他2名講演)
● 分子栄養学を学ぶための基礎化学講座 開講
● 金子雅俊「献花式」開催：東京
● KYB渋谷クリニック・KYB豊崎クリニック 統合、
KYBクリニック 開院：赤坂

SDGs への取り組み SUSTAINABILITY

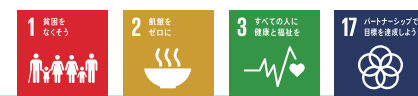
最新の取り組み状況は
公式ウェブサイトへ ▶▶▶



貧困や飢餓、エネルギー不足、気候変動等
個人では解決することが難しい社会問題が、世界には数多く存在します。

KYBグループは、国際社会の一員として、持続可能でより良い社会の構築に貢献するために
「SDGs(持続可能な開発目標)」に賛同し、17の目標のうち13項目を実践しています。

Vitamin Angels への寄付



Vitamin Angelsは、世界中の栄養失調の母親と子どもたちを対象に
ビタミンA含有サプリメントを無償で提供している非営利団体です。
現在世界70カ国以上で活動し、これまで約7000万人もの
母親と子供たちをサポートした実績をもちます。

KYBグループは、「全ての母親が幸せで元気な赤ちゃんを産むに値する」という
Vitamin Angelsの活動理念とその取り組みに共感し、2020年に
日本初のコーポレートパートナーとなりました。



Photo by Vitamin Angels Official Twitter (@vitaminangels)

国際協力機構 (JICA) への寄付



独立行政法人 国際協力機構 (JICA) は、貧困や飢餓に苦しむ世界中の方々の支援を目的とした
「世界の人びとのためのJICA基金」への寄付を募っています。

KYBグループは、JICAの活動理念とその取り組みに賛同し
「SDGs推進私募債」の発行を通じて「世界の人びとのためのJICA基金」に寄附を行うことにより、
平和で豊かな世界の実現に貢献しています。



環境保全への貢献



KYBグループでは、包装容器のリサイクル推進や食品ロスの削減等を通じて、地球環境の保全に取り組んでいます。

1 包装容器のリサイクル推進

分別が難しい紙管容器からアルミ袋に変更することで、包装容器の
廃棄性の向上とゴミ総量の削減に努めています。



2 少量頻回製造による食品ロスの削減

徹底した在庫管理により製品と原材料の廃棄ゼロに努めています。

3 脱炭素化 (CO₂削減)・節電

製品製造時の燃料を重油から都市ガスに変更したり、各事業所で
節電を推進したりすることにより、省エネに努めています。

4 ペーパーレス化の推進

帳票類のPDF化や製品カタログの電子書籍化等により、紙ゴミの
削減に努めています。

健康寿命の延伸に貢献



KYBグループは、独自考案した全身の健康状態を可視化する自費検査 **Kシリーズ** (詳細 → p.09) を
全国で受けられる体制を整えることにより、全国で延べ約7万名もの方々の病気の予防・早期発見・治療をサポートしてまいりました。

また、KYBグループは、セミナーやウェブマガジン等を通じて科学的根拠に基づく健康情報を発信することにより
自分の健康を自分で守れる人材を育成し、日本社会の健康寿命の延伸に貢献しています。

誰もが働きやすい職場環境づくりの推進



KYBグループでは、社員は企業の持続的な成長に最も重要な財産であると考え、長時間労働の削減や
フレックスタイム・テレワーク制度の導入等により、全社員が心身共に健やかに働ける職場環境づくりを推進しています。

また、女性社員の割合が高いことを考慮し、産前産後・育児休暇明けに復帰しやすい体制を整えることにより
性別やライフステージに捕らわれることなく、誰もがスキルや経験を発揮できる職場環境の実現を目指しています。

1 長時間労働の削減

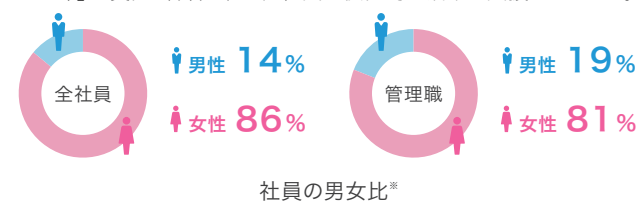
残業時間の管理や短時間勤務制度の導入、有給休暇の取得の推奨
等により、長時間労働の削減に努めています。

2 フレックスタイム・テレワーク制度の導入

働く時間と場所を選択できるようにすることで、社員のストレス軽減と
ワークライフバランスや生産性の向上に努めています。

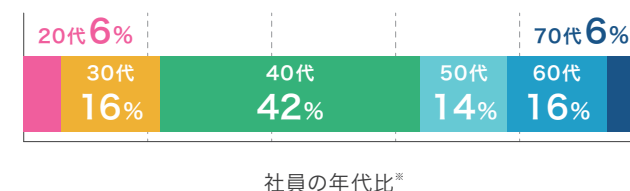
3 ダイバーシティ (多様性) の推進

「女性のエンパワーメント原則 (Women's Empowerment Principles :
WEPS)」に賛同・署名し、女性社員の積極的な活躍を支援しています。



4 定年再雇用制度の導入

心身共に健康で、技術と知識を備えた定年後の人材を再雇用すること
により、後進の人材育成に努めています。



※ 2022年10月現在、ケンピファミリー、分子栄養学研究所、KYBメディカルサービス、KYBクリニックに勤務している社員の比率

SDGsとは



SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) とは、貧困や環境汚染等の国際社会が抱える問題を解決するために、
2015年9月の国連サミットで採択された行動計画です。「地球上の誰も取り残さない」という理念のもと、世界全体で取り組むべき
17の目標を掲げています。

いわばSDGsとは、**世界中のすべての人々が安心・安全に暮らし続けられる、より良い世界を目指す国際目標**なのです。



代表挨拶 GREETINGS FROM REPRESENTATIVES

身体の状態を知る。

病気の原因は、私たちの身体の中に眠っています。

これからも、栄養と医療を組み合わせた独自のヘルスケアサービスを通じて

皆さまの健康を支える第一の存在であり続けたい。

日本の分子整合栄養学の原点としての責任を果たす

分子整合栄養学を中心とした個別化医療で一人ひとりに寄り添うヘルスケアサービスを

KYBグループのルーツは、日本の分子整合栄養学の祖である金子雅俊が、分子整合栄養学を取り入れた高用量・高品質なサプリメントを日本で初めて開発・製造する企業として、株式会社ケンビファミリーを1984年に創立したことにさかのぼります。

分子整合栄養学は、私たちの身体をつくる分子に着目した、分子生物学に基づく新しい栄養学です。私たちの身体を構成する細胞は、食事によって取り込んだ栄養素(分子)でできていますから、細胞の動きに必要な分子が不足したり、生体内で競合する分子間のバランスが乱れたりすると、細胞機能が低下して心身にさまざまな影響が出ます。分子整合栄養学は、適切な栄養補給によって生体内の分子を正常化し、健康に役立てようという学問であり、分子整合栄養学に基づくヘルスケア事業は私たちKYBグループを形作る特長のひとつです。

栄養失調というと、現代日本にはまったく縁のない話のように思えますが、血液を調べてみると、有経女性の9割は潜在性鉄欠乏性貧血を抱えていますし、タンパク質や

ビタミン・ミネラル等のさまざまな栄養素が不足している方が実に多くいらっしゃいます。2019年末から始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)においても、重症者ではアルブミンやビタミンC・D、亜鉛等の血中濃度が低いことが指摘されていますので、現代型栄養失調が私たちの身近に潜んでいることにご理解いただけるのではないのでしょうか。

金子雅俊がKYBグループを創立したのは、あらゆる疾患に生体を構成する分子の異常が関与していると考え、分子整合栄養学に基づくヘルスケアサービスを提供するためです。1984年の創立以来、全身の健康状態を可視化する詳細な検査項目セットの考案・確立や、生体内の分子の正常化に役立つ高濃度・高品質なサプリメントの開発・製造等、分子整合栄養学に基づくヘルスケア事業を徐々に拡大してきました。2020年からは、I型介護医療院や訪問看護ステーション、障がい者を対象とした相談支援センターの運営等、ヘルスケア事業の幅を更に拡大しています。

日進月歩で進化する医療や科学とこれからも歩みを共にするために、KYBグループはたゆまぬ努力で前進し続けます。私たちの活動にご理解いただけましたら、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

KYBグループが目指すもの

人生100年時代を支える トータルヘルスケアカンパニーへ

KYBグループは、「オプティマムヘルス」をキーワードに、幅広い年代、幅広いバックグラウンドをおもちの方々のさまざまな健康上のお悩みに寄り添うトータルヘルスケアカンパニーを目指しています。

「健康であること」と「病気でないこと」は、決して同義ではありません。検査で異常がみられず、たとえ病名がつかなくても、何らかの不調を抱えている時点で「健康である」とは言えないのです。私たちKYBグループが目指す「オプティマムヘルス」とは、ただ病気でないだけでなく、心身共に最高・最善の健康状態のことです。

人生100年時代と言われながらも、健康寿命(健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間)と平均寿命の間には、男女共に約10年もの差が広がっています。KYBグループは、これからも日本中の方々のオプティマムヘルス実現をサポートすることにより、人生100年時代を支えるトータルヘルスケアカンパニーへ成長していきたいと考えています。

サステナブルな社会を目指す

国際社会の一員として 持続可能でより良い社会づくりに貢献

KYBグループは、地球全体の健康にやさしい企業であるために、SDGsに積極的に取り組んでいます。

まず、貧困や飢餓による栄養失調に苦しむ方々を少しでも減らすために、Vitamin Angelsや独立行政法人国際協力機構(JICA)への寄付を通じて支援を行っています。

包装容器のリサイクル促進や食品ロスの削減等の環境保全への取り組みについては、製造業者として相応しい企業であり続けるために、今後更なる強化を図っていきたいと考えております。

また、従業員が働きやすい職場環境づくりについては、KYBグループ自身の持続的な発展だけでなく、社会貢献という意味も含めて、特に積極的に取り組んでいる分野です。

サステナブルな社会の発展に今後も積極的に取り組んでまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

KYBグループ
代表取締役医師

金子 俊之

KYBグループ
代表取締役社長

金子 雅希

グループ理念 GROUP PHILOSOPHY

● ミッション - KYBグループの使命・存在意義 -

Optimize Health for the Future

未来に備える、オプティマムヘルス

● ビジョン - KYBグループの目指す姿 -

Integrated Healthcare and Medical Solutions

一人ひとりに寄り添う、トータルヘルスケアカンパニー

KYB GROUP 公式ウェブサイト

KYBグループは、オプティマムヘルスの実現をサポートし
人生100年時代を支えるトータルヘルスケアカンパニーとなるために、
さまざまな取り組みを行っております。

KYBグループの新たな取り組みは、オンラインで随時ご報告しておりますので
公式ウェブサイトをぜひご覧ください。

<https://orthomolecularjapan.co.jp/>



共同研究公募 OPEN INNOVATION

KYBグループは、栄養と医療を組み合わせたトータルヘルスケアサービスをご提供することにより日本人の健康寿命の延伸に貢献し、人生100年時代を支える存在でありたいと考えています。そして、その鍵を握っているのが**分子整合栄養学**（詳細 ➡ p.05）という学問です。

分子整合栄養学の更なる発展のため、私たちKYBグループは栄養素の働きに関するさまざまな研究を行うと同時に、共同研究を募集しております。

当グループがもつリソースを最大限に活用し、お互いにとって有益なコラボレーションを実現いたしますのでたくさんのご応募をお待ちしております。

対象とする研究分野	健康の維持・増進、QOLの向上、オプティマムヘルスの実現を目的とした、分子整合栄養学に関する研究 例：栄養素の働きに関する研究 病態と栄養状態の関連性についての研究 アスリートのパフォーマンスと栄養状態の関連性についての研究
対象者	大学・短期大学および大学院、中学校・高等学校・高等専門学校、医療機関、社会福祉団体、その他公的研究機関のいずれかに所属する研究者（学生を含む）
研究期間	最長3年（応募課題に応じて個別に検討いたします）
応募方法	KYBグループ公式ウェブサイトもしくは右記のQRコードから専用フォームにアクセスしてお申し込みください。 （※ お送りいただいた情報は選考にのみ利用し、それ以外の目的では利用いたしません。）
選考結果	お申し込みフォームにご記入いただいた内容をもとに、当グループにて審議を行います。審査結果はメールにてお知らせいたします。

KYBクラブのご案内 INTRODUCTION TO KYB CLUB

KYBグループは、当グループのヘルスケアサービスを必要とされている方に向けて「KYBクラブ」という会員制ヘルスケアクラブを運営しています。

KYBクラブでは、健康管理に必要な知識を「**学ぶ**」ことができる他、詳細な自費検査を通じて全身の健康状態を「**知り**」、検査結果に基づいて今の自分に必要な栄養素を「**補う**」ための3つのサポートを受けることができます。

1984年の創立以来、KYBクラブの輪は徐々に広まり2022年10月現在、延べ約7万名の会員の皆さまにご支援いただいております。KYBクラブに関する詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。

KYB CLUB 公式ウェブサイト ▶▶▶

https://kybclub.co.jp/



会社概要 CORPORATE PROFILE 連結社員数196名



分子栄養学研究所

名称	分子栄養学研究所
所在地	〒150-0011 東京都渋谷区東1-6-13 KYBビル3F
設立	1985年
代表者	所長 金子俊之
業務内容	● 栄養素に関する研究と生化学や現代医療等の知識に基づく学術的な検証 ● 「ケンビックスシリーズ」および「レナヴィアシリーズ」の開発・製造 ● 講演会や勉強会への情報提供
ウェブサイト	http://orthomolecular-lab.jp



KYB MEDICAL SERVICE

名称	株式会社 KYB メディカルサービス
所在地	〒150-0011 東京都渋谷区東1-6-13 KYBビル2F
設立	1994年
代表者	代表取締役社長 金子雅希
業務内容	● 自費検査を実施している提携医療機関と受診者の仲介 ● 専門医による検査データの分析とそれに基づく栄養アドバイスのご提案 ● 検査データの集積



Kenbi Family co.,ltd.

名称	株式会社 ケンビファミリー
所在地	〒150-0011 東京都渋谷区東1-6-13 KYBビル2F
設立	1984年
代表者	代表取締役社長 金子雅希
業務内容	● 「ケンビックスシリーズ」の販売 ● 講演会や勉強会等のイベントの企画・運営 ● 会員制ヘルスケアクラブ「KYBクラブ」の会員情報の登録・管理



KYB CLINIC KNOW YOUR BODY

名称	医療法人社団 同心会 KYBクリニック
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂2-5-7 渡辺商事赤坂ビル6F
設立	2004年
代表者	理事長 / 院長 田畑淳子
業務内容	● 病態別等の項目に分けた約40種類の自費検査の実施 ● メディカルレポート、栄養レポートの発行 ● 分子整合栄養学を学んだ管理栄養士・栄養士等による栄養相談
ウェブサイト	https://kyb-clinic.jp/



特定非営利活動法人 分子整合栄養医学協会

名称	NPO法人 分子整合栄養医学協会
所在地	〒150-0011 東京都渋谷区東1-11-3-401
設立	2004年
代表者	理事長 金子俊之
業務内容	● 分子整合栄養学の普及を目的とした講演会・勉強会の開催 ● 分子整合栄養アドバイザーの養成 ● 分子整合栄養学に関する情報の発信
ウェブサイト	http://orthomn.org/



医療法人社団松寿会

介護医療院松寿会病院

名称	医療法人社団 松寿会 介護医療院松寿会病院
所在地	〒134-0083 東京都江戸川区中葛西5-33-15
グループ参画	2020年
代表者	理事長 金子俊之 院長 山内賢二
業務内容	● 要介護度の高い方向けのI型介護医療院 ● 365日24時間医師・看護師が常駐 ● 看取りまで対応可
ウェブサイト	https://www.matsutoshikai.or.jp/



KM Import Planning

名称	株式会社 KM インポート企画
所在地	〒150-0011 東京都渋谷区東1-11-3-401 東京営業所
設立	2006年
代表者	代表取締役社長 金子雅希
業務内容	● 食品及び食品原料の輸入 ● 医薬品の輸入代行事務手続き ● 海外食品・医薬品メーカーの調査

KYB AMERICA

名称	KYBアメリカ (Organic Wave, Inc.)
所在地	2221 E. Arapahoe Road #3203, Littleton, CO 80122-9998, U.S.A.
設立	2003年
代表者	President - Yoshiyuki Nakasone
業務内容	● 原料の開発・調達・輸出 ● 海外市場の情報収集 ● 米国におけるサプリメント開発

※ 2022年10月現在